

在学生の証言!



国際公共政策研究科
比較公共政策専攻 2年
富田 武宏さん (26歳)

公務員として、国や地域の発展に貢献できる広い視野を養いたいと思い、この授業を履修しています。市民社会をテーマに多面的な視野を養えるように、鍛えてもらっている感じです。今の仕事に応用できる視点や切り口、価値観を得られるので、大変ありがたく思っています。山内教授は、学生の主体性を重視しながら、適切なアドバイスで、よりよい研究へと導いてくださる先生です。



国際公共政策研究科
比較公共政策専攻 博士後期課程 3年
長谷川 雅子さん (47歳)

アジアの貧困問題に取り組む国際協力NGOで働いています。発展途上国の開発援助の方法やその背景となる地域経済などについて学びたいと思い、この科目を取りました。学ぶうちに、NGOの活動は「点」であることに気付かされ、国や地域といった「面」に対する支援のあり方を考え、どのように現場の仕事を方向付けるか、新たな課題が持ち上がりました。広い視野をもつ身につけようと思っています。

大阪大学大学院

1994年に開設された国際公共政策研究科は、法学・政治学・経済学に関する学術的で実践的な知識を統合することで、日本や国際社会が直面する公共的な政策課題の解決に取り組んでいる。現代感覚を研ぎ澄まし、課題を体系的に分析・評価し、解決策を率先して提案できる、世界的な視野を持つプロフェッショナルの養成を目指している。



ランチの時間も有効利用

午前の土曜セミが終了し、ランチをみんなでとる。午後のセミナーを担当する講師も加わり、ランチミーティングとなる。異なる分野で活躍する学生同士、最新の情報を交換。幅広い知識を吸収しつつ、多様な人脈作りにもなる。



ココがポイント!
幅広い知識を身につけていくには
物事の関連性、
結びつきを考えることが大切

15:30 終了

仕事につながる
研究成果を生むために

研究テーマは、社会人学生がそれぞれの仕事の場で抱える課題がベースになっているが、その解決策を導くためには、客観的な視点からどうえらぶことが大切。仕事の場でどのようなことが起こっているのか、体系付けながら課題を整理する。

学生各自の研究テーマの
研究成果をレビュー

和やかな雰囲気の中で、各学生が取り上げている研究テーマに関する先行研究などに関するレビューから始まる。持ち時間は1人10分。各自がそれぞれのレビューを理解することで、多様な視点を養っていく。



全員から意見が出される

レビューの発表が終わると、他の学生や山内教授から意見が出される。リサーチクエスチョンの設定方法や分析手法の妥当性について、厳しい指摘がされる。客観的なデータに基づいた科学的な分析・検証の大切さを身につけるとともに、相手を納得させられる表現力も養うことになる。



午後の講義「市民社会研究セミナー」開始

外部講師による、講義形式による研究報告会がスタート。この日のテーマは「アメリカのコミュニティ投資政策とCDFI(コミュニティ開発金融機関)の動向」と「ソーシャル・ファイナンス」。ここで新しい研究テーマや研究手法についてインスピレーションを得ることも多い。このセミナーは、NPOやNGOなどに興味を持つ一般の人にも開放している。

ココがポイント!
科学的な根拠がしっかりしているか、
客觀性は保てているか検討し合う

多様な価値観を理解し、新しいルールを模索

山内教授は、実務に生かせる研究が大切だという思いを持って指導に当たっている。国際機関などでしっかりと意見を述べながら、多様な意見も受容し、新たな解決の道筋を見つけられる実践力を養えるように指導している。

土曜ゼミでは、各自が取り組んでいる研究テーマの進捗状況について、課題や疑問点、自分なりの答えを含め発表しなければならないが、他の学生から必ず意見が出る。多様な意識を持った学生の意見は、論理の飛躍や解釈の誤りを正すだけでなく、自分とは異なった視点による課題アプローチ方法や分析方法の提案につながっていく。

授業は、土曜日を中心に集中的に行い、午前中が土曜ゼミ、午後はゲストスピーカーによる講義形式にし、議論によって知識を学ぶ。授業は、土曜ゼミ、午後はゲストスピーカーによる講義形式にし、議論によって知識を学ぶ。

21世紀に入りグローバル化が進んだことで、法律、社会制度、文化、行動規範など、地球規模での変革や衝突が生じている。そのため政府だけではなく、NGO(非政府組織)、国際機構、民間企業などのさまざまな機関や組織に属する政策の担い手の間で、新たなルールの確立を目指した取り組みが始まった。そこで「市民社会研究」は、NPO(非営利団体)、NGO、ファイナンソロジー(慈善活動)、あるいはこうした市民活動と政府・企業との関係など、広い意味での市民社会生活に注目した現状や研究動向について考察し、今後の展望を検討することを目指している。

山内 直人 教授
大阪大学大学院
国際公共政策研究科



●やまうち なおと
1978年大阪大学経済学部卒業。博士(国際公共政策)。旧・経済企画庁(現・内閣府)を経て、92年大阪大学助教授に就任。現在教授。イエール大学客員フェローなどを歴任。NPO学会会長。専門分野は政策研究、公共経済学。環境、都市・土地問題、NPO・NGO、ボランティア、ODAなどの実証研究を手がける。